



- 白子川源流まつり報告
- 白子川流域にも縄文時代があった！
- 源流探歩⑦ 白子川のアンケート
- よごれた水がきれいになるーペットボトル浄水器
- ◆ 源流がよごれている!! (上)
- 定例活動報告

白子川 源流まつり

白子川の恵み



去る10月25日「第15回源流まつり」が開催されました。

当日、白子川(宮本橋近く)で捕獲したアユを展示。5月に火の橋下で初めてテスト放流したアユで、体長は15cmほど、小ぶりですが立派です。

白子川には貴重な動植物が生息し、生命の営みが育まれています。太古には縄文人まで白子川の恩恵を受けていたと思われます。

太古・現在そして未来まで、動植物のため、自分のため、地域のために「みんなの白子川」を大切に。

(文・八本賢二/写真・岡崎一成)

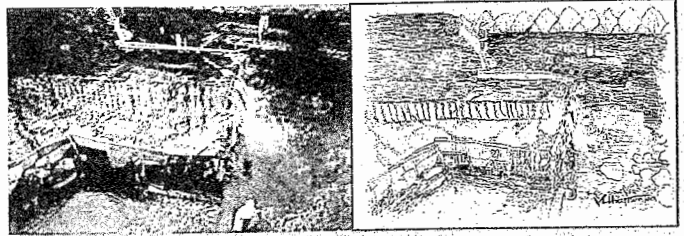
定例活動報告

8月 9月 10月 11月

* ~白子川の 15年という歲月~ *



9月定例時、「これは、カワムツじゃないか」と井口くん。宮本橋下で、投網で捕獲したアブラハヤなど91匹のなかの1匹。



最近になって、長く白子川のスケッチをなさっている萩原さんから、そのスケッチのために撮りためた白子川の写真をいただいた。そこに写っていたのは井頭橋下の堰なのだが、不覚にも私は、それをどこだかわからなかった。形が変わったことを忘れていたから。萩原さんがこの堰の絵をこの通信に寄稿して下さったのは確か、今から11年前の2004年5月のこと。こんなふうには、堰も変わったし、そして、川の中の植生も大きく変わったのだった。

11月の定例活動には、うすら寒い天候にもかかわらず、会員以外ではTOTOの方々他に、そのTOTOのHPを見て参加されたという方があった。江古田の保坂美里さん、そして遠く前橋から参加の中村彩花さんのお二人。ありがたいこと、そして心強いことであり、心から感謝したい。

私たちの“ふるさとの川”に、ひとりでも多くの方が触れてほしい、こんな想いは15年前にはまったくなかったけれども、今では当たり前のように持っている自分に気づく。活動は確実に広がり、若い方々の参加と活躍が目立つようになった。15年を経て私たちの活動は、いま、大変だけれども新しい段階に入ったことを実感している。

(東谷 篤)

＊源流域・水の測定データ

測定地点	日 天気 気温 項目	8/23	9/27	10/25	11/22
		°C	26	24	
源流部	水温℃	20	17	源	18
	水深cm	18	18	流	14
	pH	欠測	7.4	ま	7.6
井頭橋	水温℃	20	18	7	18
	水深cm	32	38	り	30
	pH	欠測	7.1		7.1

※このほか、透視度、電気伝導度、COD、川幅、堰の流量などを測定している。pHは水素イオン指数で、pH7が中性、これより大きいとアルカリ性、小さいと酸性を示している

活動記録

- 9/12 白子川源流まつり 実行委員会①
- 15 大泉南小4年生 白子川授業
- 19 竹炭づくり、焼印作業
- 24 大泉南小4年生 白子川体験
- 27 定例活動
- 10/2 大泉南小4年生 白子川体験
- 4 白子川源流まつり 実行委員会②
- 7 TOTO助成金中間報告、2016申請

- 10/12 白子川源流まつり 実行委員会③
- 15 まちセン関係者白子川訪問 12名
- 25 第15回白子川源流まつり
- 11/ 1 南大泉図書館出前講座
- 22 定例活動
- 12/23 会報第46号発行
- 27 定例活動、望年会(予定)

第15回白子川源流まつり報告



わら筆体験



大泉南小の白子川調べ学習発表



メダカプレゼント



アズマヒキガエルにタッチ

10月25日、井頭公園で「第15回白子川源流まつり」が開かれました。地元の60近い商店と㈱TOTOの協賛をいただき、例年通り20ほどのブースに分かれて展示やワークショップが催されました。今年はメダカのプレゼントが復活、ステージではおなじみ、はらっぱ音楽隊の合唱やゴージャックサタデイズの演奏、そして、メインの大泉南小4年生による「白子川調べ学習」の発表、源流談議では2007年から縄文遺跡を展示してきた鷺田芳夫さんによるお話がありました。

当日は肌寒く風もありましたが、地域のまつりとして定着してきたのか、小さいお子さんからご年配の方までたくさんの参加者がありました。

今年は恒例の企画にプラスして、水辺の会らしい「白子川アンケート」と水質コーナーでは「ペットボトル浄水器」が登場。また、いつも人気の生きものコーナーでは、水槽の中を元気に泳ぐ白子川育ちのアユやアズマヒキガエルに真剣な面持ちでふれる子どもたちの姿が印象的でした。

反省点は15年目の経験と共に慣れも生じて小さなうっかりミスがあったこと。来年に向けてはしっかり気を引き締めて新しい「源流まつり」の形をみんなで考えていこうとの決意を新たにしました。(東谷 篤)

白子川流域にも縄文時代があった!

…出土したチョ～めずらしい土器…

鷺田宅(東大泉7丁目)の建て替えの際(2005年)に縄文後期(約4000年前)の遺跡の発見があったことは「通信」20号(07年)にすでに安藤桂子さんがお書きになっています。今回は、今年の「源流まつり」の談議の中で鷺田さんのお話くださった「有孔罎付(ゆうこうつばつき)土器」と白子川流域の縄文遺跡について調べてみました。

現在、縄文時代と考えられているのは今から約1万5000年から2300年前の時期。白子川流域には、鷺田宅(東大泉病院一帯)の井頭遺跡の他にどこに縄文遺跡はあるのでしょうか。大まかに言えば、上流から見て右岸を中心に点在し、線路を越えて東大泉3丁目の都営東大泉アパートや弁天池付近、比丘尼橋や外環ジャンクション付近、陽和病院付近、そして清水山と稻荷山憩いの森付近にあります。

ちなみに鷺田宅からは5つの住居跡、200近い土器、14の石器が出土されました。その中でも、完全な形で炉の後から出てきたのが「有孔罎付土器」(写真)です。これは、口の部分に5mmほどの穴がたくさん空いているもので、関東を中心に出土例が非常に少ない土器です。これまでの研究では、酒造りに使ったと考える説、口に皮を張って太鼓として使ったなどの説があります。いずれも祭り用と考えられています。この土器は現在、「ふるさと文化館」に展示されています。(東谷 篤)



口径14cm
高さ9cm

子どもの目が輝いた

よごれた水がきれいになる

「地下水はなぜきれいなのか」を知るためにペットボトル浄水器を作って調べてみました。

作ってみよう!

用意するもの

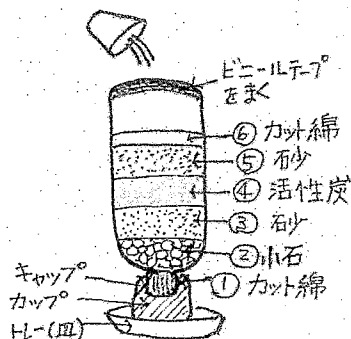
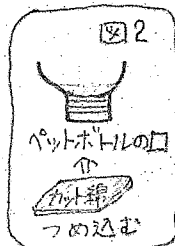
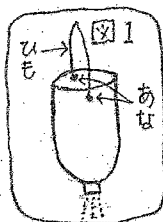
- ・500mlのペットボトル
 - ・小石150g・砂300g
 - ・活性炭100g・カット綿
 - ・カッター・ハサミ・プリンカップ
 - ・キリ・ビニールテープ
 - ・トレー(皿)
- ※すべて、ホームセンターや大規模の100円ショップで購入可能です。



湧き水は、昔から人々がその近くに住みついて飲み水に利用し、田んぼには水を与えてくれる大切なものでした。また、きれいな水を使ってお酒などを作ったりもしてきました。

湧き水の元は、地下水です。雨水は土や岩の割れ目などを通して地下に浸みこみます。それが地下の粘土層や基盤の岩といった水を通さない地層で止まると地下水になります。その地下水が横に流れて、低い場所から湧き出すのです。

湧水はどこにあるでしょう? 地形をよく見て崖を探したり、小さな水の流れをみつけて上流をたどったりして、探してみてください。都会では、清水山憩いの森など公園の中で守られていることもあります。



●作り方(準備)

- 1.小石、砂を別々にきれいに洗います。ペットボトルに別々に詰めていくので、混ざらないようにしましょう。※きれいに洗わないと、ろ過した水がにごってしまいます。
- 2.ペットボトルの底をカッターなどで輪切りにします。※切ったふちはビニールテープをはってケガをしないようにします。
- 3.ペットボトルキャップの真ん中に、直径2~3mmほどの小さな穴を開けます。
- 4.土台となるプリンカップの底をカッターなどでペットボトルの飲み口の大きさに抜きます。(プリンカップが無い場合は、上部分にぶら下げるひもを付けます。図1)
- 5.キャップをはずし、さかさにしたペットボトルを土台となるプリンカップにさし立たせます。
- 6.フィルターとなる材料を図の順に①カット綿(図2)を飲み口の部分に詰め、次に②小石→③砂→④活性炭→⑤砂の順にすき間が出来ないように詰めていきます。最後に⑥カット綿を上からていねいにしきつめて完成です。

●試してみよう!

うすめた、泥水や米のとぎ汁を上から少しずつそそいでみて下さい。上手に作れば、澄んだ水に変わります。もし、うまく浄水できない場合は砂や活性炭を増やすなど、材料のバランスを変えてみましょう。泥水や米のとぎ汁だけでなく、お茶や牛乳、オレンジジュースなどもうすめて試して下さい。実験して、色が大きく変わるものや、そうでないものを比べてみましょう。(※)簡易的な浄水器のため飲んではいけません。

私の感想

目に見えてきれいになっていく水に、子どもたちの目は輝いていました。汚い水を避けるのではなく、きれいにしていくことに興味を持ってもらえたら、源流まつりの役割の一端を果たせたのではないかとうれしく感じます。

—ペットボトル浄水器—を製作している時には本当に水がきれいになるか不安でしたが、きれいになって出てくる水に感動しました。ぜひ、みなさんも一度つくって体験してみてください。

(望月 孝)



大量発生したアオミドロの除去作業

源流がよごれている!!

——原因と対策(上)

菅沢 博

なぜ? どうする?

はじめに

白子川源流の中でも井頭橋より上流域は、川底の土壌や水質は年々悪化しており、なんとか食い止めなければなりません。その策を検討するタタキ台を作りたく、2回に分けて私案を書きたいと思います。会員のみならず地域の方々も含めて一緒に、源流のあり方をプランしていきませんか。

原因は?

悪化の主な原因は「下水の流入」。全国共通の問題です。合流式下水道(図1)では、大雨が降ると一度に大量の水が合流管に流れ込むために、下水処理場の処理能力を超えないように「下水吐出口」を設置して河川に放流するようになっています。白子川源流も同じ。吐出口は井頭橋のすぐ上流にあります(写真1、2)。川に流入した汚水(家庭排水+雨水)はそのまま下流に流れていくかと思いきや、源流の昔は井頭池だったこともあって勾配がゆるく流れが遅いため上流に逆流してしまいます(図2)。

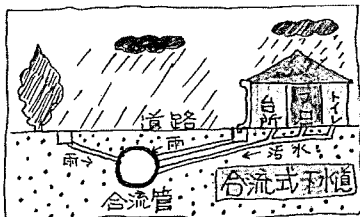


図1 合流式下水道の仕組み

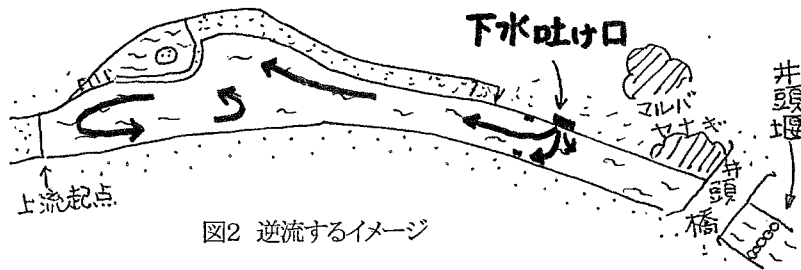


図2 逆流するイメージ

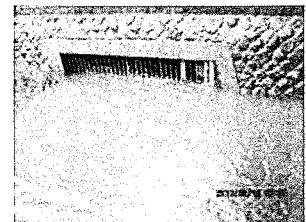


写真1 大雨で大量の汚水が下水吐出口から流入し、水位はグングン上がる

つまり、20 数年間ずーっと、下水吐出口が設置されてから、大雨時には井頭橋より上流に汚水が逆流して川を汚してきたわけです。 ※もちろん、汚れたのは源流だけではなく白子川全体、新河岸川、東京湾も。

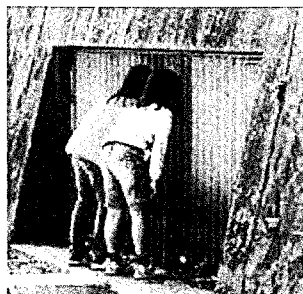


写真2 ふだんは“不思議な穴”

当会設立の2001年から、汚水の流入も大腸菌の数が多いことも把握していましたが、危機感はそれほど強いものではありませんでした。しかし、あれから15年、井頭橋より上流域の底質や水質の悪化が顕著になってきました。川底の泥は大量に積もり、アオミドロは大量発生し、ホトケドジョウやシマドジョウの生息数が減っており、もはや待ったなしの段階にきています。

どんな対策がたてられるでしょうか? (続きは次号に掲載予定)

コイ科カマツカ亜科に属する。ここ数年白子川上流でよく見られる。産卵期は4月から7月にかけて産卵する。水草の中において、草やイトミミズ等の底生生物を食べる。

体の長さは大きなものでも10cm程度で、頭が丸くずんぐりしている。色は褐色がかったものやブルーメタリックなものもある。

似た品種にホンモロコがあるが、タモロコのほうが2本ある口髭が長く、体がずんぐりしている。第1鰓弓の鰓耙数(鰓のとげ)はタモロコが6~12本あるのに対し、ホンモロコは14~20本あると言われている。

タモロコ



ネットより

販売コーナー報告

白子川 源流まつり



川沿いの焼きそばコーナー

- ◆白子川グッズ(“みんなの白子川”プレート/絵はがき/竹炭/関係者からのシャトルの飾り・リボン・ペン立て)
- ◆ミニ焼印 ◆わら筆 ◆アクリルたわし
- ◆焼きそば ◆源流カフェ

以上で、10万円を超える売上げがありました。東北支援として送ります。

これからの活動予定



- | | |
|----------------|----------------|
| 1 / 24(日) 定例活動 | 3 / 27(日) 定例活動 |
| 2 / 28(日) 定例活動 | 4 / 23(日) 定例活動 |

※運営会議は定例活動の前夜です

定例活動 毎月第4日曜 午後1:30~

どなたでも 川にはいれます!

編集後記

▼ある日ネット検索で、三浦半島の小網代(こあじろ)の森で活動している岸由二氏を知り、「流域」という考え方に大きなヒントとチカラを得た。「小網代」で検索を、<http://www.koajiro.org/> (ひ)

▼文章を産むのがほとんどきつくなってきた。ある詩の一節に「どうせ産むならたとえば山羊のようなものを産みたい」というのがある。山羊はいいなあ。センスキもいい。私は一体何を産みたいの?(あ)

▼家の犬は川辺を通ると、必ずや川の中を覗き込む。いったい何を見ているのかと私も覗いてみるが、いつもの景色が見えるだけだ。犬はただ川の流れてに癒されているだけかもしれない。(さ)

▼この秋から、土鍋に張りついた僅かなご飯をスズメにあげようと、ペランダの木片に載せはじめた。つぎに見るときれいになくなっていく! 嬉しいから、ほんの5、6粒のときでも置きにいらしてしまふ。(け)

発行 白子川源流・水辺の会
 編集 東谷 篤/東谷貞子/菅沢恵子
 題字 宮本沙海
 発行部数 1,300部
 代表 菅沢 博 03-3923-8430
 練馬区南大泉 1-10-5
suga-lohas@jcom.home.ne.jp
http://www.geocities.jp/sirako_river/
 ※この会報は年3回発行しています

当会は TOTO 水環境基金の助成を受けています